



1. 吹き抜けのリビング。天然ならではの形状が際立つ梁は、キャットウォークに。2階ホール壁に見える正方形の穴は、出入りのためのネコ窓。
- 2-3. 2階ホール。屋根勾配を活かした天窓は、昼間は抜けるような青空、夜には満点の星空を見せてくれる。机を設え、いずれ子供が生まれたら、彼らの勉強部屋にする予定。
4. 「子どもは2人欲しい」とお二人。将来2つに分けられるよう、ドアも、窓も、コンセントも…全てシメトリーに作られた子供部屋。
5. 玄関わきのシューズクロゼットには、コートも収納できて便利。
6. 左は浴室、右はクローゼットのドア。クローゼットは奥に見える寝室につながっていて、来客中もプライベートが守られる。

六匹のネコと暮らす家。

風に揺れる緑の木々、かすかに聞こえる川のせせらぎ。
豊かな自然に抱かれながら、
六匹のネコとシェフとパティシエールが、仲良く暮らす家がありました。

LIFE STYLE CONSCIOUS HOUSE 01

好きを極める家

高橋建築舎

文/荻原美穂 撮影/金井良介

自然素材のここちよさ、造作の確かさに衝撃を受け

2匹のネコと賃貸アパートで暮らしていたK様ご夫妻。「事故でけがをしたネコを引き取ったり、会社の裏で鳴いていたネコを連れ帰ったりして、手狭になってしまったんですよ」。ご主人は東京の有名店で修業を積んだフランス料理のシェフ。そして奥様はパティシエール。いずれ東京へ戻るともりだったが、「この辺りは環境が良く、良い食材もたくさんあるので、永住してもいいかなと考える始めていたこともあり、この機会に家を建てよう」と二気に盛り上がったお二人。「どうせ作るなら自然豊かな場所がいい、森の中なか最高だね」。川のせせらぎが聞こえるといいな」と話し合い、まずは土地探しから始めたという。

「高橋建築舎を訪れたのも、この辺りで手広く不動産を扱っておられるので、土地の相談をするためでした。実は僕、料理を作るだけでなく、設計からインテリア、食器選び、オペレーションまで、店舗に関わる一切をプロデュースするのも仕事なので、設計士やインテリアコーディネーターともお付き合いがあるし、

自分の家に関しても、誰にどんな家を作ってもらおうというイメージがあったんです。それが、高橋さんのオープンハウス（本紙20号掲載）を見せてもらった途端、全部ぶっ飛んでしまった。「これがいい！」と。その場で家を建てて欲しいとお願いしました」。



